

平成29年度 病害虫発生予察情報(美濃地域) 10月予報

【 トマト・キュウリ 】

虫媒ウイルス病

トマトではタバココナジラミが黄化葉巻病、キュウリではミナミキイロアザミウマが黄化えそ病をそれぞれ媒介します。今後、気温の低下とともに、ウイルスを保毒している害虫が施設内へ侵入すると予想されます。施設内をよく観察し、発病株を見つけた場合は伝染源となるため早期に除去し、これら害虫に効果の高い薬剤によって防除を実施してください。

【 野菜類 】

トマト灰色かび病 * 病害虫発生予察注意報第4号 (H29.9.14付け) 発表

夏秋トマトでは、8月中旬以降の天候不順により、葉先枯れや花がらなどの枯死部から発病し、果実に被害が出ています。そのため、伝染源となる花がら、葉先枯れ部は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出して処分してください。

○主な病害虫の発生時期及び防除時期(10月)

作物	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
かき	カメムシ類	やや多							・園への突発的な飛来に注意する。 ・防除時は収穫前日数に注意する。
	防除適期		(ほ場で確認したら速やかに行う)						

<施設>

イチゴ	ハダニ類	やや多							・炭疽病 発病株はただちに除去する。
	炭疽病	並							
防除適期			(発生状況により随時行う)						
トマト	コナジラミ類	少							・コナジラミ類 薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	灰色かび病	並							
防除適期			(発生状況により随時行う)						
キュウリ	褐斑病	少							・褐斑病 罹病性品種では発生に注意する。 ・うどんこ病 発病がみられるほ場では早期に防除を行う。
	うどんこ病	並							
	べと病	並							
防除適期			(発生状況により随時行う)						

<露地>

野菜類	ハスモンヨトウ	やや少							・薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	アザミウマ類	少							
	アブラムシ類	並							
防除適期			(発生状況により随時行う)						

注1) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注2) 調査品種：かき(富有)、イチゴ(濃姫・美濃娘)、トマト(CF桃太郎J：葉かび病抵抗性品種)、キュウリ(カレラ：褐斑病耐病性品種)

イチゴ ハダニ類

9月下旬の調査では、ハダニ類の寄生が平年より多いほ場が認められました。これはハダニ類が寄生した苗の持ち込みによるものと考えられます。主に寄生するナミハダニの発育零点は約10℃で、20℃の温度条件下では、約15日で世代を繰り返すため、防除が遅れるとすぐに増殖し、被害が拡大します。

今後、気温は低下しますが、施設内では生育に必要な温度を上回り、ハダニ類は増殖すると考えられます。ほ場での発生状況に注意し、寄生が見られる場合は防除を実施してください。特に天敵を導入する場合は、放飼前にハダニ類の密度を十分に低下させてください。

なお、防除にあたっては、葉裏に棲息するハダニ類に直接薬液がかかるよう、丁寧に散布してください。また、薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避けてください。



図 ナミハダニ成虫

＝施設栽培の病害虫について＝

施設栽培では、作型や栽培環境などにより施設ごとに病害虫の発生状況が異なります。施設内をよく観察し、病害虫の発生状況に応じた防除を実施してください。

東海地方1カ月予報(名古屋地方気象台9月28日)

向こう1カ月の気温は平年並み～高く、降水量は平年並み～少ない、日照時間は平年並み～多いと予想されます。天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767